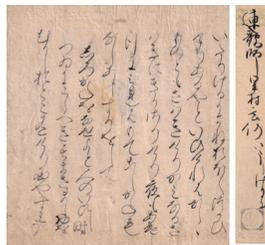


六〇一 古筆切 伊勢物語

一三、〇〇〇円

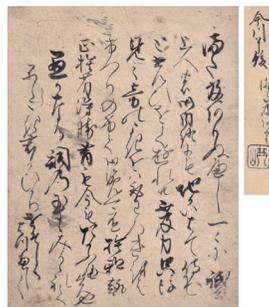
伝里村玄仍筆 14.2 × 12.8 寸
流布本とは異なる本文



六〇二 古筆切 歌論書

一三、〇〇〇円

伝今川了俊筆 20.3 × 15.3 寸



六〇三 渡唐天神像

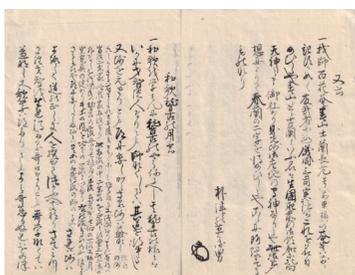
絹本着色 54 × 24.5 寸 室町時代 十五世紀

一八〇、〇〇〇円

小さい頭部や天神像としては珍しい面貌表現で、南宋から元の院体画で描かれた肖像画を学んだ専門絵師の手によるもの。全体の描線や金泥を用いた文様などにも卓抜とした技術がみられる優品。



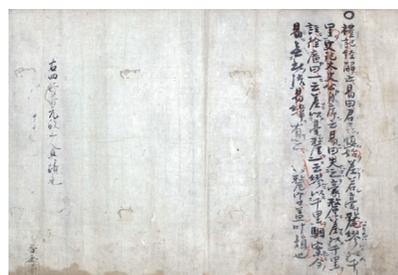
*元々は軸装だが、表具及び画面の地の部分に虫損が夥しく、仮に額に入れていた状態となっている。要修理・再表装。絵具がついている部分にはほとんど虫損はない。



6005 和歌稽古秘決抄

50,000円

江戸中期写 春山士蘭著 宝暦12年栗山満光・宣庵序跋 大本1冊 82丁 図入 幕府医官「野間氏旧蔵」印 少虫損
春山は東福寺僧・堺大安寺住持 中院通村の弟子聴松庵（山口新也）に、その没後は中院通躬に和歌を学ぶ 本書は死後に春山の弟子が遺稿をまとめたもの



6004 古筆切 註釈稿

35,000円

伝深草元政筆 30.5 × 44 寸
文政7年大蔵汲水紙中極



6006 二十八列宿巻

220,000円

紙本着色 卷子装 18 × 689 寸 江戸時代後期
二十八宿それぞれに対応する動物を順に描いた画卷 題は籤による〔巻頭から順に〕蛟・龍・貉・兔・狐・虎・豹・獬・牛・蝠・鼠・燕・猪・鼯・狼・狗・雉・雞・鳥・猴・猿・犴・羊・獐・馬・鹿・蛇・蚓





6008 空穂考 15,000円

慶応3年写 伊勢貞丈著 半紙本1冊
43丁 図入

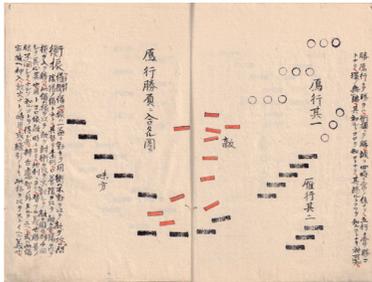


6007 書印本

江戸前期写 仮綴 横半紙本 26丁
平安後期源義兼から戦国宇喜多秀家まで武士花押131点を記す

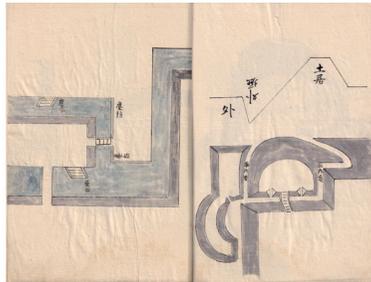


15,000円



6009 夢癡搔註

江戸後期写 大本1冊 49丁 彩色図入
兵法書 前半は縄張や櫓・石組など城郭について、後半は各種陣形の運用について記す

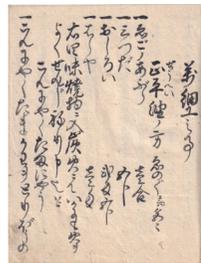


30,000円



6011 拵物致用 萬間書

貞享4年写 19×15.3cm 1冊 31丁 図入 少虫損



15,000円



6010 大坪流 騎道

文化4年写 特大本 1冊 26丁 彩色図入



10,000円

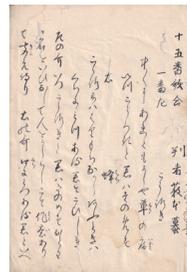


6013 紫笛狂歌集

如雲舎紫笛著 柳原喜兵衛版 半紙本2冊 題簽傷 文化11年
『狂歌こと葉の道』と『狂歌真の道』を1組にし改題した再版本

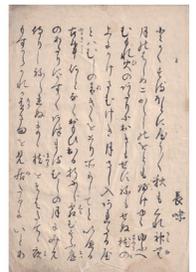


38,000円



6012 むし歌合

江戸中期写 木下長嘯子著 半紙本
1冊 14丁 虫損



15,000円

六〇四 橘守部・道守 短冊と手本
一括 三〇,〇〇〇円

守部短冊六枚
守部折手本(金剛経・和歌)一帖
道守短冊四枚
附『橘の昔話』(橘守部伝記資料 昭和四)
『橘守部大人自筆遺稿展観入札目録』
(昭和一四)



六〇七 麦湖賛 子をとろ子をとろ図
三〇,〇〇〇円

一式画 紙本墨画 軸装 32×43 框
少斂・ヤケ 箱無
麦湖署名 朱文楮円印「麦湖」
句賛は書体から、江戸中期大和の俳人、
麦湖楼古山(乙由門)と思われる
画者の一式は不詳



六〇五 上田秋成短冊 五〇,〇〇〇円

江戸中期 国学者・歌人 少汚・極少補修



六〇六 建部綾足短冊 二五,〇〇〇円

片歌 江戸中期 俳人・画家・作家

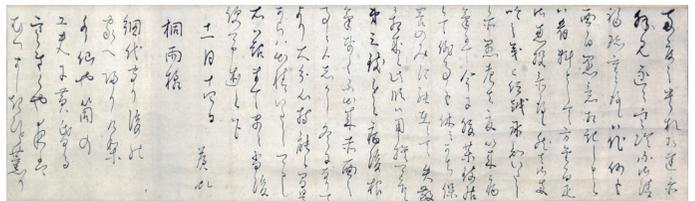


6019 伝 長澤蘆雪書状 50,000円

軸装 16×35cm 箱無 少ヤケ
巻止にある旧蔵者の書付には「蘆雪呉春兄へ」とある。本書状の署名「魚」を蘆雪、宛名の「水兄」を呉春と解釈したものだが、現在数点知られている蘆雪の書状と比較しても書体・署名が異なるため、蘆雪とは判定できない。書状中の句「立琴もけふは寝ころぶ月見哉」は、乙由に「立琴もけふは寝させて月見哉」(『麦林集』)があるので、あるいは乙由本人、もしくは周辺俳人の書状の可能性もある。

6018 成田蒼虻書状 30,000円

桐雨宛 発句入 16×57cm 裏打有 額入 江戸後期俳人



6021 星野麦人・野崎柴分筆俳書写本 30,000円

6冊一括 明治後期～昭和初期写 麦人写：『徳万歳・ななくるま・みつの白(以上巢兆)・たままつり(雁宮)』合本『点印論(几童)・月の夜(樗良)・存義集』合本 柴分写：『枇杷園句集(土朗)』『布袋庵発句集(柳几)』『馬光発句集(馬光)』『雪中庵完来句集(完来)』



6020 春牒 50,000円

幻遊庵魚仏坊編 半紙本 挿絵色摺 3巻合1冊 嘉永5年



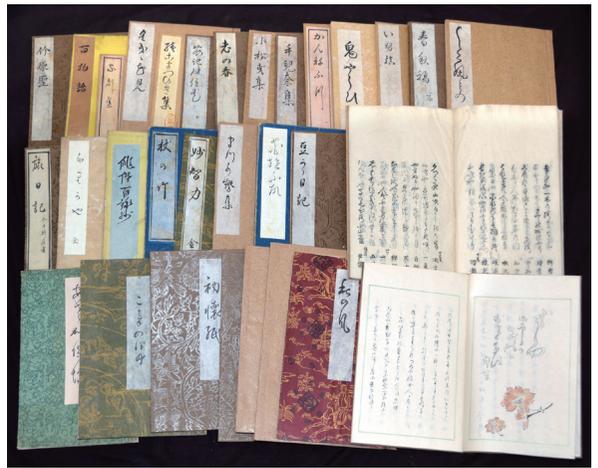


6023 明治～昭和初期 信濃地方関係
句集・俳諧関係書 27冊一括
35,000円

私家版多 挿帙入 信濃俳句結社による句集、俳人肖像集、信濃俳諧・一茶研究書、売立目錄等

目録

- 研究記録「一茶翁句集」 ペン書 鳥井村村松義博所蔵の一茶遺墨軸に記された発句を調査しまとめたもの 長野県上水内郡野尻尋常高等小学校蔵 作成年不明
- 研究記録「樋口氏所蔵俳書目録解説」 ペン書 県立長野図書館蔵 作成年不明
- 『嬉捨山長楽寺碑文句集』 長楽寺発行 刊年不明
- 『古戦場俳句集』 編者 刊年不明
- 『正阿句集』 諏訪文庫第一編 刊年不明
- 『仏都八勝』 伊藤鉄蓮 刊年不明
- 『星川集』 瀧澤嘉蔵 明治25年
- 『本八卦かへり』 中村莊右衛門 明治34年
- 『時鳥百吟集』 信月庵椿富著 甬山画 明治33年
- 『月百吟集』 信月庵椿富著 甬山画 明治38年
- 『千なり集』 秋籬園千瓢追善 大正10年
- 『寛政紀行 たびしうゐ』 一茶叢書別編第2 昭和2年
- 『句稿消息』 一茶叢書別編第3 昭和3年
- 『俳諧解脱抄』 野口在色遺稿第1 昭和7年
- 『一茶翁終焉記』 西原文虎稿 昭和17年
- 『一茶と文虎』 新井一清著 昭和17年
- 『北信某家所蔵品売立』 長野市温古堂 昭和8年
- 『市内小池氏所蔵品入札』 長野市温古堂 昭和8年
- 『某家所蔵品売立』 長野市温古堂 昭和9年
- 『善光寺句集』 田中美穂編 昭和8年
- 『善光寺句集』 田中美穂編 昭和11年
- 『俳句より観たる善光寺』 田中美穂著 昭和9年
- 『噴煙集』 美穂先生句碑建設会 昭和15年
- 『月院社何丸』 西澤茂次郎編 昭和11年
- 『句集雲上』 田中半茶著 昭和21年
- 『山邨 第2号第2巻』 信濃郷土出版者 昭和10年
- 『科野 第4巻第2号』 粟生純夫編 昭和24年



6022 信濃地方を主とした江戸後期～明治初期
刊行俳書の近代写本 30冊一括
80,000円

作成者不明 昭和20-30年代写 関口彦一郎(1879-1958) 長野県立図書館関口文庫) 旧蔵書写本が多い 挿帙入

目録 (『書名』 編著者 刊年 備考)

- 『妙智力』 菊堂 安永10 亀成13 回忌句碑記念集
- 『むめ柳』 柳莊 寛政5
- 『老の春』 猿左 寛政6 猿左が文台を開いたときの記念集
- 『蓬が室』 猿左 寛政7
- 『旅日記』 柳莊 寛政7写 寛政7年関西・中国地方紀行 原本自筆
- 『竹原聖』 猿左 寛政8 杉雨より芭蕉使用の竹如意を譲られた記念集
- 『いぬ楨』 五芳 寛政9
- 『百物語』 希言他 寛政10 柳莊・文兆・杜厚等善光寺俳人の物語
- 『くきゝ花見』 希言 寛政12
- 『鬼やらひ』 凡化 寛政12
- 『手児奈集』 猿左 寛政12 猿左東遊記念集
- 『むむかし』 吐丈 享和2
- 『こけのつゆ』 綾貫・一雄 文化3 朴翁追善集
- 『初懐紙』 武日 文化8
- 『かんねふつ』 巢光 文化8 柳莊追善集
- 『こまつひき集 正・続』 武日 文化10・文政10
- 『豆から日記』 葛三 文化12 天姥が梨翁と改号した時の賀集
- 『杖の竹』 松宇 文化14 松宇六十賀
- 『なりかや』 八朗 文化14 白雄27回忌追善
- 『秋の風』 一寸 文化14 芭蕉句碑建立記念集
- 『まつかぜ集』 雉啄 文政4 倉田葛三3回忌追善集
- 『春秋稿 第八篇』 碩布 文政7
- 『手向のはな』 其祥 文政9 希言17回忌追善集
- 『耳痒集』 弥天 天保3 吐丈追善集
- 『花ゆふこ』 雉旭 天保4 牛堂の追善集
- 『しぐれみの』 佐久連 天保6 故園の追善集
- 『あきのかぜ』 駒々 安政2 無事庵叢の追善集
- 『家つと集』 井月 元治元
- 『俳諧百詠抄』 越川雄雄 明治15
- 『あさがほ塚』 須原畏三 明治19 羽田墨芳追善集



6024 俳句・書画貼交帖 『金声玉音』 50,000円

俳人瀬川露城が中心となって制作された書画帖 旧派の俳諧宗匠が中心で、計340点貼込 3帖 明治後期 瀬川露城・西川春洞・荒井閑窓・大主耕雨・田辺機一・酒井道一(画家)・嵐窓願十・村田周魚・川端玉章(号璋翁画家)・松浦羽洲など複数作品貼込



6027 冷泉為恭 絵因果経
170,000円

木版墨摺 軸装 27×39.7 糎
安政二年 桐箱 神田喜一郎旧蔵
父永泰十三回忌追善 私家版
鎌倉時代「新因果経卷第四」巻末を模刻したもの



六〇二六 北山寒巖 花鳥図
南蘋風 絹本着色 軸装 101×35.7 糎 桐箱 江戸中期
江戸生 南画家 馬忠良の子 一八〇,〇〇〇円



六〇二五 太田山陰 関羽像
龍公美賛 南蘋風 絹本着色 軸装 105×32 糎 合わせ箱
江戸中期 東三河絵師 諸葛監に学ぶ 七〇,〇〇〇円



6029 岸光景 ひいな図 100,000円

絹本着色 軸装 96×41cm 岸光景箱書 明治期
京都生 画家・図案家 帝室技芸員
神坂雪佳の師としても知られる



六〇二八 東東寅 蓬萊・吉野・龍田図
絹本着色 軸装 106×35 糎 古箱 江戸後期
仙台藩画員 東東洋の子 六〇,〇〇〇円

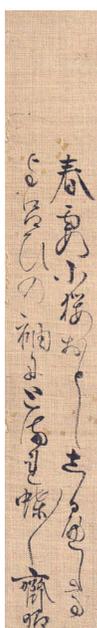


六〇三〇 大橋翠石 動物画帖
絹本着色 十二面 各28×21 糎
大正昭和初期 岐阜出身 日本画家
台紙表装左下角に数ミリの欠有 一〇〇,〇〇〇円

六〇三 徳川齊昭短冊

綿本 幕末期 水戸藩主

一五,〇〇〇円



六〇四 長野主膳(義言)短冊

三枚一括 幕末期 国学者 井伊家臣 一枚折れ有

三〇,〇〇〇円



六〇三 望月玉泉 中川重賢像

紙本着色 洋風技法写実画 65×35糎 箱無 明治初期

重賢は丹波国馬路村を支配した両苗郷土で、文人として和歌・俳諧もよくした人物。教育家中川謙二郎の実父、立命館大学創設者中川小十郎の母方の実祖父にあたる。参考書『重賢重補大人遺稿合集』(中川謙二郎 大正一四年 私家版)付

三五,〇〇〇円



六〇四 伊藤博文短冊

第二次内閣総理大臣を辞して、短い遊居をしていた時の詩(題「徐夕辞京」) 少ヤケ

一五,〇〇〇円



六〇五 坂田耕雪 伊藤博文像

絹本着色 未装まくり(額入) 写真画 44×37糎 明治後期

六五,〇〇〇円



六〇六 伊藤博文 七言絶句

純本二行 171×38.5糎 大正八年野村素軒箱書 二重箱 枢密院議長の職を辞し、小田原に居住していた明治二十三年の春に詠んだ詩(題「眼前」) 関防印は朱文長円印(滄浪閣)

一一〇,〇〇〇円



六〇七 明治期華族・歌人和歌帖

『筆の林』 八〇,〇〇〇円



紙本 二〇面 各27×39糎 筆者目録巻・旧蔵者書付(昭和初頭東京美術倶楽部伊達家旧蔵売却落札品云々)付 古箱入
【筆者】近衛忠熙(題字)・久我建通・正親町実徳・伊達宗城・嵯峨実愛・黒川真頼・三田葆光・植松有経・松浦詮・稲葉正邦・林信立・小股景徳・前田利賢・津軽承昭・冷泉為柔・池田茂政・水野忠敬・小出榮・鈴木重頼・加藤安彦